

▲「ちひろの生まれた家」記念館

●主催●越前市観光協会●ちひろ美術館●



いわさきちひろ お正月の子どもたち 1966年

いわさきちひろ 生誕地・武生 ピエゾグラフ展

ちひろ 子どもたちの冬

2025/12/13[SAT] ▶ 2026/3/2[MON]

いわさきちひろ 生誕地・武生 ピエゾグラフ展

ちひろ 子どもたちの冬

2025/12/13[SAT] ▶ 2026/3/2[MON]

ちひろの描く冬の絵の子どもたちは、体が縮こまってしまう寒さのなかでも、元気に遊んでいます。

ちひろ自身も、冬を楽しんでいました。信州生まれの両親をもつ彼女は、女学生のころよりスキーを得意としていましたし、母となってからも、正月は家族で信州の温泉で過ごすなど、忙しい仕事の合間の家族の時間を大切にしていました。これらの経験は、彼女が描く絵のなかに息づいています。

本展では、冬の子どもたちが描かれた作品と、雪山を舞台に描かれる絵本『つるのおんがえし』を紹介します。いきいきと雪を滑る子どもや、あたたかい帽子やマフラー、ミトンを身に着け、楽しく冬を過ごす子どもたちをご覧ください。

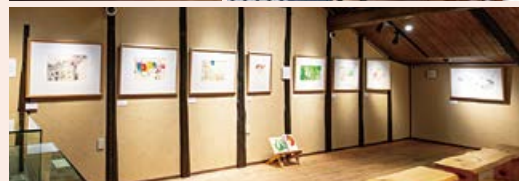


黄色い帽子の少女 1973年

【ピエゾグラフとは】 ちひろ美術館では、2004年より、その時点の作品の状態をデジタル情報として記録し、保存していくアーカイブを進めてきました。同時に、そのデジタル情報をもとにして、「ピエゾグラフ」の制作をしています。

ピエゾグラフとは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩表現を高度に再現しています。

CHIIHIRO
MEMORIAL HOUSE



越前国の中心地として栄えた武生（現・福井県越前市）のまちなか、職人町風情が漂う旧北陸道から少し東に入った路地に面し、静かに佇む古い町屋があります。そこはかつて、質・古着屋が営まれていた商家。この家の離れで、のちに日本を代表する絵本画家となる、いわさきちひろは生まれました。ちひろの母・岩崎文江は当時、武生町立実科高等女子学校の教師として単身赴任していました。やがて、ちひろを身ごもると、お産のためにこの家の離れに移りました。そして1918年12月15日の雪の朝、ちひろはここで産声をあげたのです。今も往時の暮らしの面影を残し、静かな時が流れるこの町屋を、「ちひろの生まれた家」記念館として公開しています。



「ちひろの生まれた家」記念館

【開館時間】 10:00～16:00

【休館日】 火曜（祝日の場合は翌日）、年末年始

【入館料】 一般 300円（高校生以下は無料）

※一般団体（10名以上）200円

※高校生以下の団体（5名以上）の引率者（1名）無料

※障害者手帳をお持ちの方150円

※障害者の引率者（1名）無料

【アクセス】（電車）ハピラインふくい武生駅より、徒歩約10分

福井鉄道たけふ新駅より、徒歩約15分

北陸新幹線越前たけふ駅より、タクシー

ご利用で約15分

（お車）北陸自動車道武生IC・道の駅「越前たけふ」より、約15分 ※駐車場あり



手仕事



Echizen-shi
JAPAN

伝統的工芸品や越前おろしそばなど、越前市観光のお問い合わせは

越前たけふ観光案内所 ☎0778(42)5257

越前市大屋町38-5-1 北陸新幹線越前たけふ駅隣 道の駅「越前たけふ」内

観光・匠の技案内所 ☎0778(24)0655

越前市府中1丁目2-3 ハピラインふくい武生駅前センチュリープラザ内

echizen-tourism.jp （運営：一般社団法人越前市観光協会）

〒915-0068 福井県越前市天王町4-14

☎0778-66-7112